絆通信 Vol.15

Kizuna Tsushin

大原やすお
福岡市議会議員《早良区》

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に拡大し、感染者数は一億人にも迫る勢いです。日本においても昨年四月に緊急事態宣言が発出され、以来あらゆる行事も中止せざるを得ない状況になりました。

日本の文化・経済の高揚に繋ぐと期待されていた東京オリンピック・パラリンピックも延期され、さらに日常生活においても三密（密閉・密接・密集）を控えなければならない状況です。仕事や教育もITで補われていますが、人間関係で最も大切な親密（絆）が失われていくのではないかと不安を感じています。

コロナ禍、閉塞感漂う社会において、「はやぶさ2」のニュースは全世界の人々に夢と希望を与えた明るい知らせでした。昨年、六年ぶりに帰還した「はやぶさ2」は小惑星リュウグウから生命の起源に迫る可能性を秘めたサンプルを持ち帰り、再び次の小惑星を目指し宇宙に飛びたっていきました。これも最先端の科学技術の粋によるだけではなく、科学者をはじめ携わった多くのスタッフの心が一つになったことによって成功に結びついたのではないかと思います。

コロナ禍の今だからこそ、人と人との心の結びつきを大切にしたいものです。子どもの養育や教育、そして住みよい街づくりに不可欠な地域自治の活性化にも引き続き尽力していきたいと考えています。

皆様の思いを市政に反映させるためにもぜひお声をお聞かせください。

福岡市議会議員　大原　やすお

自由民主党福岡市議団
大胆な財政出動と施策を提言
コロナ禍への迅速な対応

昨年、突然全世界を襲った新型コロナウイルス感染症は本市におきましても市民の日常生活や経済活動に大きな影を落としています。自民党福岡市議団は緊急事態宣言の発出を受けて直ちに、コロナの感染拡大防止や困窮者に対しての支援について市が独自に緊急対策を講じるように政策提言書を髙島市長に提出しました。その後も状況に応じて提言書や意見書を4度にわたって提出し、コロナ禍から市民の命と生活を守るため、これまでの前例や常識にとらわれない大胆な財政出動と施策を求めてまいりました。

政策には、提言の重要な部分が軒並み反映されたものと評価しております。

令和３年度予算におきましても新型コロナウイルス感染症対策として少しでも市民の不安をなくすために、子どもたちの教育や生活の充実・地場中小企業の支援・検査体制の強化など多岐にわたって予算や政策要望をいたしております。

市長に来年度予算要望書を提出する自民党福岡市議団役員
（左から3人目大原議員）

なくてはならない生活の足
急がれる生活交通対策

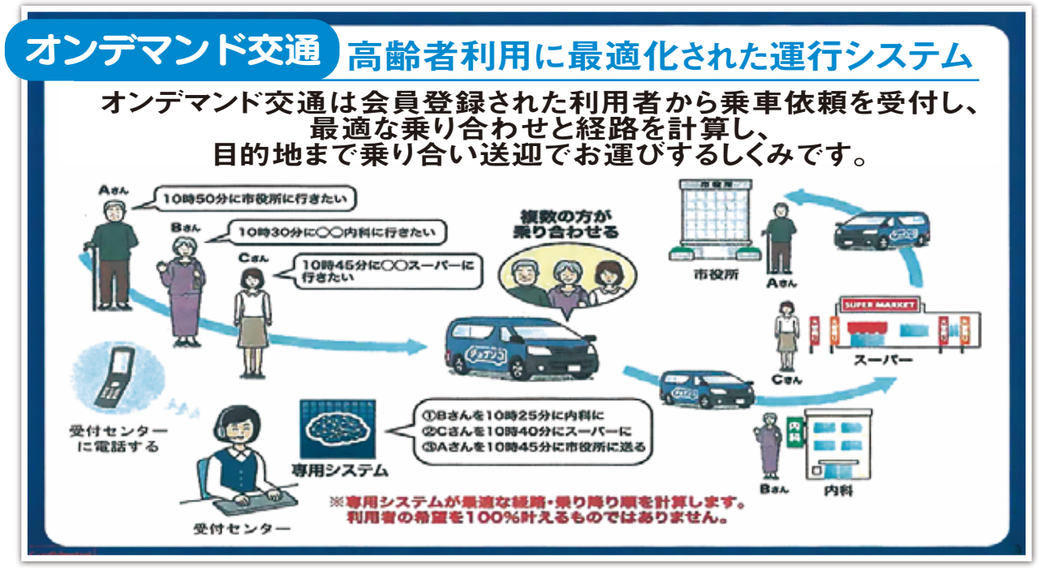
市民に身近な公共交通機関である乗合バスが、採算性や運転手不足によって路線の休廃止や減便が進んでいます。

高齢化が進むにつれ、郊外だけではなく市街地の高齢者からも、体力の低下や免許証の返納によってバス停まで遠いとか坂道とかで、買い物や金融機関などに出かけるのに苦労している、何とかして生活交通を確保していただきたいとの声が上がっています。

市は地域の取り組みや地域と交通事業者との調整などにさまざまな支援を行っています。早良区南部においてもバスの減便や路線廃止対策として年間約2千6百万円かけていますが、利用者が少なくなかなか効果があがっていません。

最近、既存のバスではなく行政が主体で運行するコミュニティバスや、電話やスマートフォンで予約して家の近くで乗降できるオンデマンドバス（タクシー）の検討や運行が始まっています。

自民党市議団も市民の方々に生活交通のアンケート調査を行い交通利便性向上につながる施策を検討しています。

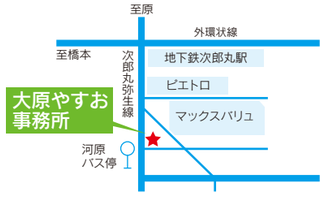


提供：アイシン精機㈱

福岡市議会議員
大原やすお事務所

福岡市早良区次郎丸4丁目9-37
（サンラーク次郎丸）

TEL 092(863)9567
FAX 092(863)9568
mail info@oohara-yasuo.jp



後援会会長あいさつ

2020年は新型コロナ感染症の感染拡大の為“集う”ということができず訪問するのもされるのもためらわれ後援会活動も自粛の一年となりました。しかし、電話などでお話の端々に「絆」で繋がっていることが感じられ力強くまたうれしい思いを致しました。

コロナの終息が見られるまで予防の基本を守りながら元気に過ごしたいものです。

くれぐれもお体を大切になさいますよう、またこれからのご健康とご多幸をお祈りいたします。

大原やすお後援会
会長　重松森雄

※絆通信印刷費用の一部は政務活動費から出させて頂いております。